

第6回宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会 議事録

1. 日時 平成27年1月23日（金） 15時00分～16時40分
2. 場所 分庁舎3階大会議室
3. 出席委員 16名
北原啓司、澤田克司、太長根理恵子、小野寺文雄、内田瑛子、林本卓男
伊藤和榮、佐香英一、高橋雅之、横田大樹、鈴木光子、佐々木慶子、岩田博子
金野侑、平藤一氏幸、望月正彦
4. 事務局出席者 8名
総務企画部長 佐藤廣昭、企画課長 山崎政典
同課市街地施設推進室長 岩間健、同室主任 竹田真人
都市整備部都市計画課復興拠点整備室長 多田康
同室主幹 高橋正浩、主査 畠中憲一郎、主任技師 田道秀一
（委託業者）
パシフィックコンサルタンツ株式会社 3名
株式会社千代田コンサルタント 2名
5. 傍聴者 6名
6. 議題 （1）宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本計画（案）について
（2）その他
7. 議事録（要旨）
（1）宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本計画（案）について

主な意見及び質疑事項

質疑

・5Pに「今後、被災したJR山田線「宮古・釜石間」の復旧が待たれるなか、・・・」とあるが、事実上、三陸鉄道の移管が決定されていることから、情報を更新した方が良い。

なお、資料10-2に自由通路のイメージ図があるが、移管により、三陸鉄道駅舎が現在の位置にあるとは限らない。観光案内所の辺りになる可能性もあるので、その辺りを頭に入れながら、計画を進めて欲しい。

三陸鉄道の北リアス線、南リアス線の車両基地は宮古に集約される可能性が高く、駅から見て、拠点施設やパチンコ店の左側が候補地となる。

質疑

・基本構想でまとめていた将来の推計人口、人口減少が、23Pの計画地の概要、人口のところで詳しく触れられていない。

前回も庁舎規模の話をしたが、人口の減少に伴って、職員数も減ることが予測される。庁舎も長寿命化されることから、平成30年度の供用開始時点の職員推計ではなく、少なくとも20年後の職員数を指標として計画してはどうか。

回答

・川井村との合併時に職員適正化計画を策定したが、被災後に事業量が増大し、状況が変わっていることから、将来の職員数については、今後精査が必要だと考えている。将来人口は日本創成会議等でも大きく減少することが取り上げられているが、20年先に合わせ

た規模とするか、それとも、供用開始時は適正規模とし、将来スペースに空きが生じた場合、転用等を検討した方が良いかは、今後検証していきたい。

質疑

・現庁舎を建てた頃は、非常にスペースに余裕があった。現在は、各諸室ともかなり余裕が無い状態となっている。職員数が急激に増えたわけではないので、昔に比べると庁舎に必要な面積は増えていると思う。必要なものはしっかりと整備するという方向性で進めた方が良い。庁舎の整備面積は理論づけが難しいが、後のことを考えれば、多少余裕を持たせて整備することも悪くない。

回答

・人口が減るから職員も一定数減るといった単純なシミュレーションではなく、この業務は人口が減っても職員が必要だという見極めを行いながら計画する必要がある。

質疑

・現在、仮施設で業務をしている保健センターは、事業スペースが非常に狭い。一歳児検診等は様子を観察するため、それなりのスペースが本来必要だが、確保できていない。岩泉町の保健センターを見たとき、施設の広さ、天井の高さ、天窓から射す光など、子どもをのびのびと育てていく環境が整っていると感じた。市庁舎で万が一空きスペースが出来ても、全て保健センターの事業スペースに転用しても良い。施設は、子どもの成長を促すような広々とした作りにしてほしい。

回答

・これまでは、最低限で作るといった話しか出てこなかったが、全て最小限で整備すると窮屈で使い勝手が悪い建物となる。最小限ではなく最適な面積という視点で計画していくことも大事である。

質疑

・１０Ｐの情報提供・発信機能の説明で、「市民活動の相談にも応じ、市民活動をサポートする機能の検討」とあるが、直接ＮＰＯ等の経験をしたことがない方だと、サポートする機能のイメージがピンと来ない。例えば、私書箱の設置、コピー機の貸出、貸倉庫など具体的に例示した方が良い。

回答

・次の設計の段階になれば、ユーザーとなる人に実際にヒアリングしながら、詳細を詰めていく作業が大事になってくる。ＮＰＯや福祉団体、職員等が想定される。

質疑

・設計者をコンペ方式で選べば、施設プランを選ぶ方式なため、使う側の意見が反映されにくいのが、どういう方式を検討しているか。

回答

・現在悩んでいるのは、ＣＭ（コンストラクションマネジメント）の業務を設計業務にどう組み合わせていくかということ。また、基本設計、実施設計を行って、建設工事だけを分離で発注した場合、他市の状況を見ても不落になっている事例が増えているということ。

どの手法を取るにせよ、選定方式はコンペ方式のデザイン公募ではなく、プロポーザル

<p>方式を採用し、設計に市民意見を十分反映できる方法を取りたい。</p>
<p>質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J R 山田線の三鉄移管駅によって、状況が様々変わってきているという話であったが、自由通路と駅を一体的に整備する可能性は残されているのか。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅の機能が変わり、駅舎の位置が変わる可能性はあり得る。検討中ではあるが、今の場所がベストである。ただし、直通運転を考えた場合、駅の J R 側 1 番線・ 2 番線を使うことになるので、三鉄側からの動線をどう考えるか今後検討していく必要がある。 1 番線・ 2 番線を使う場合、三鉄駅舎は不要であるが、場合によって、改札機能だけ残すかもしれない。これら様々な条件が確定しない状況の中で、市としての考え方を示していただく形になる。 ・ なお、車両基地については、宮古駅から見て、拠点施設やパチンコ店の左側が候補地となるが、仮にそうなった場合は、エンジンをふかすため、防音装置が必要になるかもしれない。 J R から移管後に、協議を進めたい事項である。
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 9 年山田線開通により、宮古の人は大変喜んだ。震災を契機とし、鉄道も生まれ変わり、自由通路も整備され、大きく変革する。 J R を利用しても、 1 0 6 急行バスを利用してもそうだが、宮古駅に近づき、外を眺めると目に入るのは、ラサの煙突、パチンコ店、宮古駅となる。拠点施設が目立つように、大きく堂々とした建物を整備して欲しい。保健センターは、空に近い高層階に配置し、子どもが伸び伸び育つ環境としてもらいたい。自由通路はエレベーターを設置し、健脚者だけでなく、車いすの方も面倒なく利用できるよう整備して欲しい。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エレベーターは、整備する予定とのこと。自由通路は、機能的にもデザインの的にも拠点施設と切り離せない。市役所のメインの機能が 2 階になることも考えられ、施設が開いていない時でも、自由通路の 2 階から 1 階に降りられる構造にする必要がある。設計や工事を一体的に取り組めるよう配慮すること。
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民活動、交流の場では、居心地の良い環境であることが一番である。予算の関係上、難しいかもしれないが、同じ目的で複数の部屋があるとしたら、それぞれ違った部屋の特徴とするなど、わくわくするような造りにして欲しい。また、既存の公民館を利用する場合も、出来るだけ施設と近いところに駐車場がある施設を選んでいるので、駐車場もしっかり整備して欲しい。長い目で見て、たくさん人が集う施設となるよう配慮して欲しい。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見える景色が変わったり、天井が高いだけでも心理的な感覚は異なる。最後は予算の問題になるかもしれないが、 2 0 年、 3 0 年先につながる気持ちの良い空間として欲しい。

質疑

・末広町商店街の意向をまとめた際も、自由通路は自動車対応を要望する声が多かったが、説明をいただき、物理上困難であることがわかった。資料１３にある八幡沖踏切の改良の件については、検討していくとのことだが、今後の進展の可能性はどの程度あるのか。不便だけでなく、学生に対しても大変危険な場所である。あそこが改良されれば、市の交通体系が改善され、良いまちになる。

回答

・問題はあったが、これまでは様々な制約から着手できない経過があった。今回、宮古・釜石間の鉄道が復旧されることになり、整備の可能性を考えるとやるなら今しかない。財源や方法論までは詰め切れていないが、ぜひ、実現したいと考えている。もう少し時間をいただきたい。

質疑

・市庁舎、保健センター、防災・地域活力創出拠点と複合的な施設を整備することになるが、市庁舎は、その他の施設に比べて投資を抑えなければならない建物だと思う。削減を基本として、計画を進めることは念頭に置いた方がよい。

また、これまで現場を見て来なかったのも、ぜひ、次回以降、現場を確認する機会があればよい。

最後に、今回の資料に関しては、これまでの意見が反映され、自由通路のイメージが分かり、非常に良く整理された計画となっている。最終的には予算の話になるはず。今回事業費の欄が空白となっているが、いつの段階で説明が出来るのか。

回答

・デスクワークだけになると、きれいに作ったパースばかりが頭に残り、実際、現場を見た感覚と異なることもある。事務局には、次回以降に現場を見る時間を設定してもらいたい。

質疑

・最終的には予算の話になるはず。今回事業費の欄が空白となっているが、いつの段階で説明が出来るのか。

回答

・財源に関しては次年度の予算化も含めて大きな問題である。次回の市民検討委員会で説明したい。

(２) その他（事務局から）

市民ワークショップについての進捗状況を説明する。また、市民説明会の開催予定について説明する。

次回第７回は、２月１２日１５時、本庁舎６階大ホールを予定する。

第８回は、３月１３日開催で調整中である。以上、閉会。